

志賀原発

どうする？避難行動

どうする？再稼働



2023 住民アンケート調査報告書

「2023住民アンケート調査報告書」の発行にあたって

東京電力福島第一原発事故からまもなく13年が経過しようとしています。いまだ原子力緊急事態宣言は発令中であり、人々の暮らしや社会、環境に与えた被害は甚大かつ深刻で、その影響がいったいいつまで続くのか、どこまで広まるのか、誰にもわかりません。唯一言えるのは、決して元には戻せないということです。原子力防災は重大事故に対して無力で、計画の破綻は多くの住民の人生を変えてしまいました。いまだ数万人もの人たちがふるさと追われています。被ばくし甲状腺がんで苦しむ子どもたちが、事故との因果関係を否定する東電を相手取り、損害賠償を求めて法廷でたたかっています。避難者が避難の権利や補償を求め裁判で争っています。被害者を取り巻く状況は理不尽極まりないと言わざるをえません。

一方で、この1年は原子力政策大転換の年ともなりました。岸田政権は2月10日、「GX（グリーン・トランスフォーメーション）実現に向けた基本方針」を閣議決定し、原発再稼働のみならず60年超運転や新型炉の開発、新設への方針まで掲げました。5月にはGX関連法案を成立させ、「基本方針」実現に向けた法整備を進めると同時に、原発活用を「国の責務」と格上げしました。

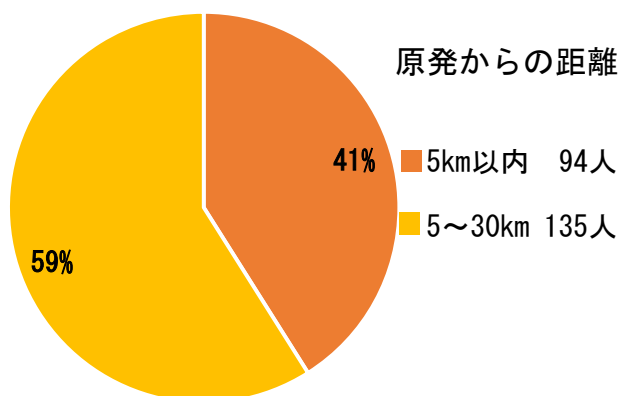
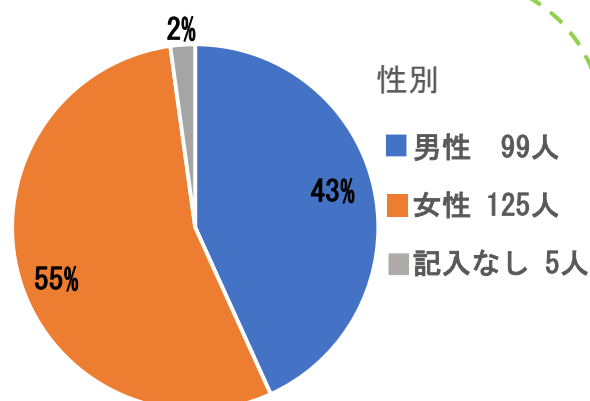
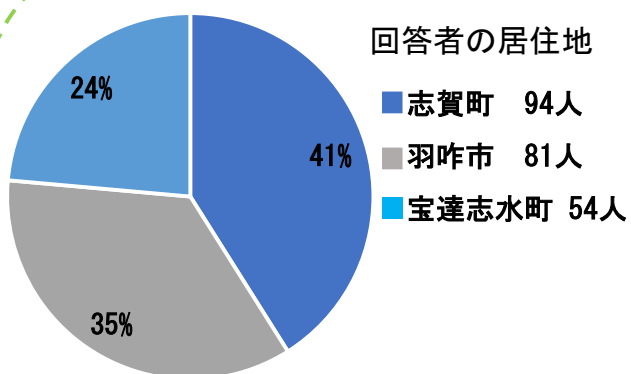
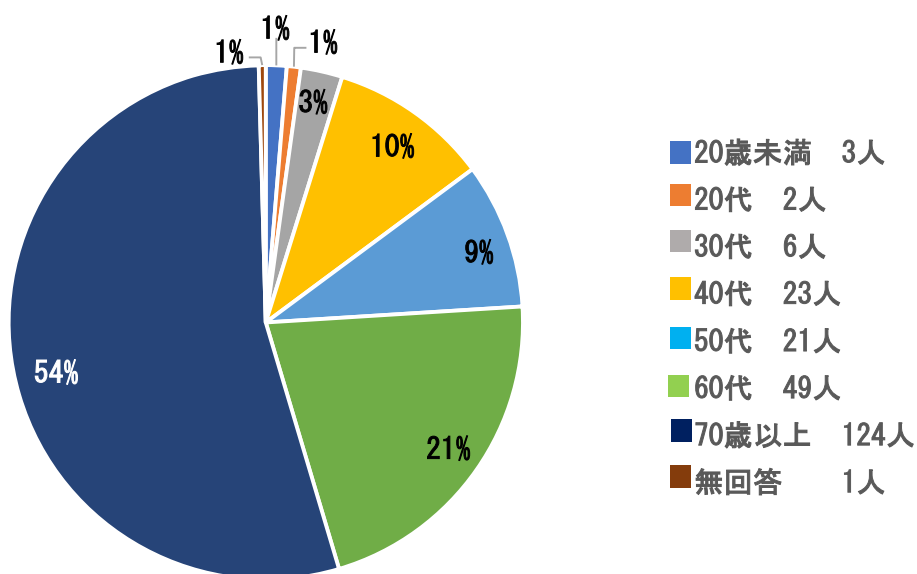
こうした中、北陸電力は昨年11月、政府の原発活用方針に後れをとるまいと志賀2号機の2026年1月の「再稼働想定」を明らかにしました。原子力規制委員会の新規規制基準適合性審査も、3月の敷地内断層問題の「決着」以降、開催ペースは加速しています。この1年の動きは、志賀原発再稼働の是非をあらためて私たちに突き付けています。重大事故に備えた原子力防災の実効性にも現実問題として向き合わなければなりません。

原発を巡る諸情勢が激変する中、11月23日には石川県原子力防災訓練が行われました。私たちは避難計画の課題や問題点を考えるうえで、住民の皆さんの意識や生の声を知ることが不可欠だと考え、昨年に引き続き、訓練の対象地区の住民アンケートを実施しました。今回は新たに再稼働に対する考えも尋ねました。調査にご協力いただいた229人の皆さんに心より感謝申し上げます。

アンケート結果は、私たちの活動に示唆を与えてくれるだけでなく、自治体関係者や原子力防災に関心を持つ人にとっても興味深い内容ではないかと思います。原子力防災や再稼働の議論を深めるための一助になればとの思いからこの報告書を作成しました。ご活用いただければ幸いです。

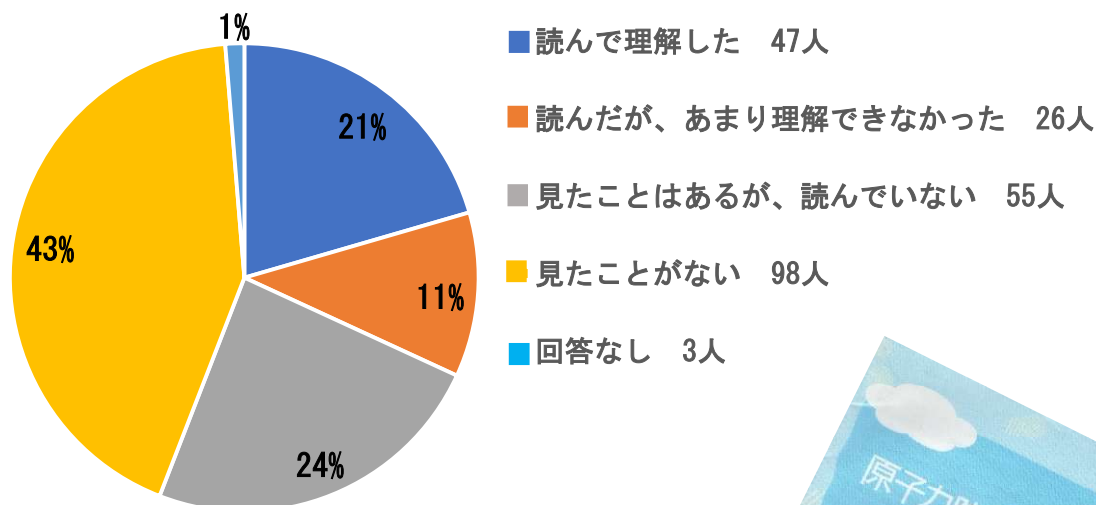
調査日	2023年11月23日（石川県原子力防災訓練実施日）
調査対象地区	PAZ（原発から概ね5km圏） 志賀町 福浦地区、熊野地区、上熊野地区 UPZ（原発から概ね5～30km圏） 羽咋市 羽咋地区（大川町、中央町）、富永地区（深江町） 宝達志水町 志雄地区（子浦）、相見地区（今浜） ※昨年は志賀町と七尾市
調査対象者	避難訓練参加者および避難訓練対象地区住民 ※原発の賛否等には関係のない無作為抽出
調査員	石川県平和運動センターを中心とした本調査実施団体の構成員
調査方法	調査員による対面聞き取り調査

質問1 あなたの年齢について

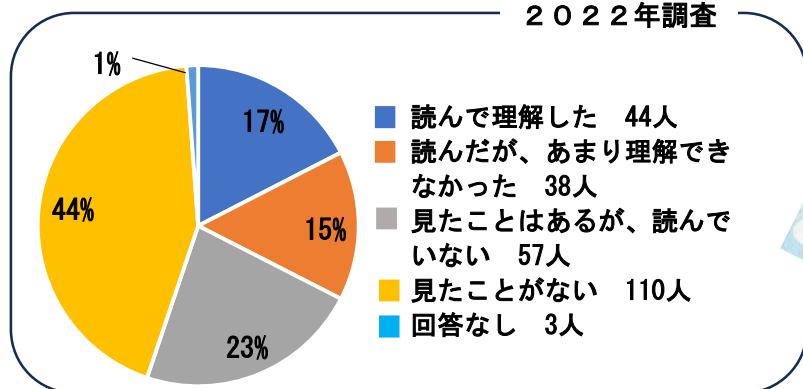


回答者は229人。若い世代の比率が昨年の調査以上に減少したのは残念ですが、性別や居住地のバランスは概ね期待通りの結果となりました。志賀町ではP A Z（原発から5 km圏内）の福浦、熊野、上熊野の3地区に入りました。羽咋市では中心街である羽咋地区の大川町と中央町、そして水田に囲まれた富永地区の深江町に入りました。原発からの距離はいずれも20 km前後です。宝達志水町は旧志雄町の子浦と旧押水町今浜で、原発からの距離はそれぞれ23 kmと26 kmです。羽咋市と宝達志水町は避難計画上、いずれも全域がU P Z（原発から5～30 km圏）となります。

質問2 石川県が発行している「原子力防災のしおり」が30km以内の全戸に配布されています。あなたは読めましたか。



2022年調査



— 改訂版で再発行・再配布を —

原子力防災計画・避難計画がどの程度周知されているかを把握するための質問です。

「原子力防災のしおり」は、①放射線の基礎知識、②災害時の対応、③原子力防災対策という構成で、どの町会・集落の人はどの自治体のどの施設へ避難するのかという一覧も記載されています。

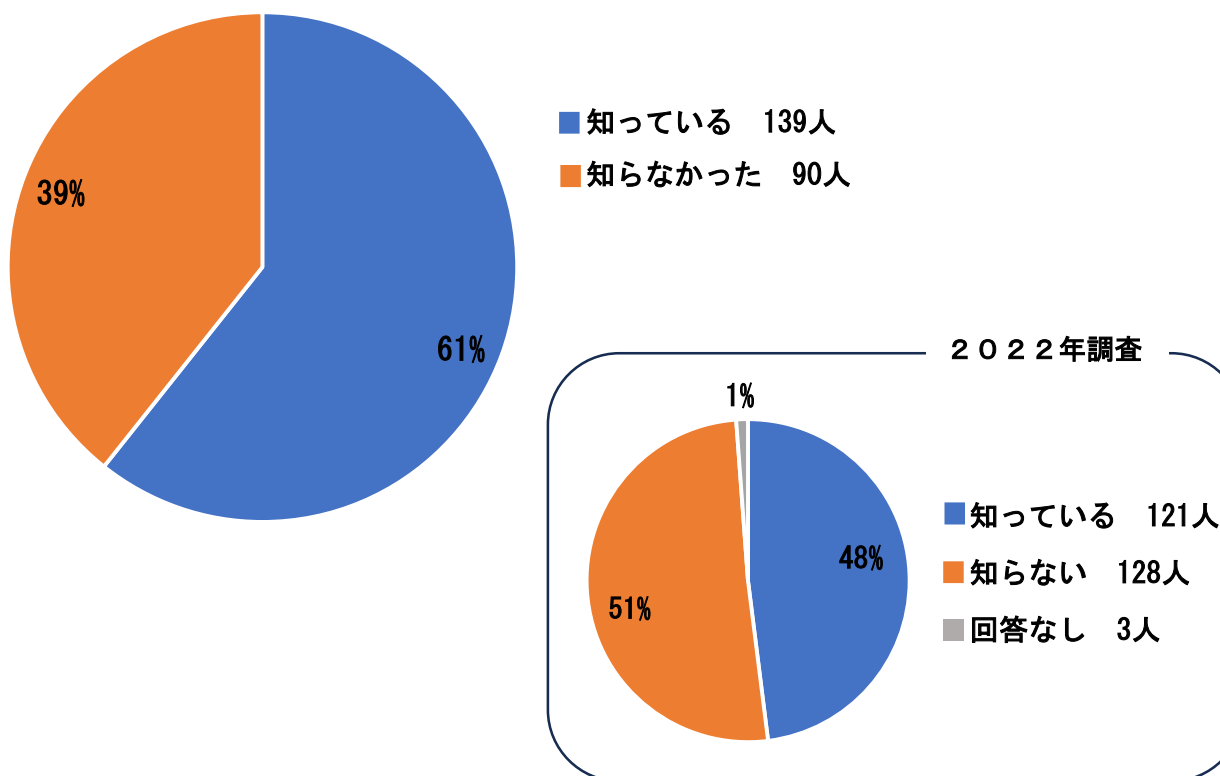
調査員は「しおり」の表紙(右図)をコピーした用紙を見せながら質問しています。

上記グラフを見ての通り、昨年とほぼ同様の結果となりました。「見たことはあるが、読んでいない」と「見たことがない」の合計は67%と、現状の周知度はかなり低いと言わざるを得ません。両項目の合計を自治体別にみると、志賀町は61%、羽咋市は70%、宝達志水町は73%でした。原発から遠くなるほど住民の原子力防災への関心が低下する、あるいは行政の取り組みが弱くなるものと思われます。しかし飯館村の例にもあるように、事故の状況や天候によっては遠い地域の方がより深刻な被害を受けることもあります。まずは行政の積極的な対応が求められます。

「しおり」自体、全戸配布されたのは2014年頃です。その後明らかになった課題や福島の実例を反映した内容に改定し、再発行することも必要です。長期避難への備えや屋内退避時の被ばくのリスク、様々な複合災害時の対応、UPZのヨウ素剤の配布方法や避難先施設の収容可能人数の見直し、それに伴う避難元地域と避難先施設のマッチングのやり直し、ペット同行避難の注意点など改定すべき箇所は数多くあります。

質問3 石川県やあなたがお住いの自治体の原子力防災計画によると、志賀原発から5 km以内の住民と5～30 km以内の住民で、避難のタイミングが違うことをご存知ですか。

5 km以内（PAZと言います）にお住いの方は、原発に異常が発生したら、周辺環境に放射能が漏れだす前に避難を開始します。5～30 km（UPZと言います）にお住いの住民は、放射線量が20マイクロシーベルト／時（自然放射線量の約400倍）に下がるまで自宅などで屋内退避をすることになっています。



— UPZ、まずは屋内退避「知っている」が61% —

福島原発事故後に策定された原子力災害対策指針で新たに導入された段階的避難について問う質問です。61%の人が知っていると回答しました。「原子力防災のしおり」を読んで理解したという人の数を大きく上回っています。「しおり」は見えていなくても、避難行動の要点は自治体広報など他の情報源を通じて理解しているものと思われます。昨年は過半数の人が知らないと答えましたが、この違いは1年という時の経過ではなく、地域差など他の要因から分析するのが妥当と思われます。

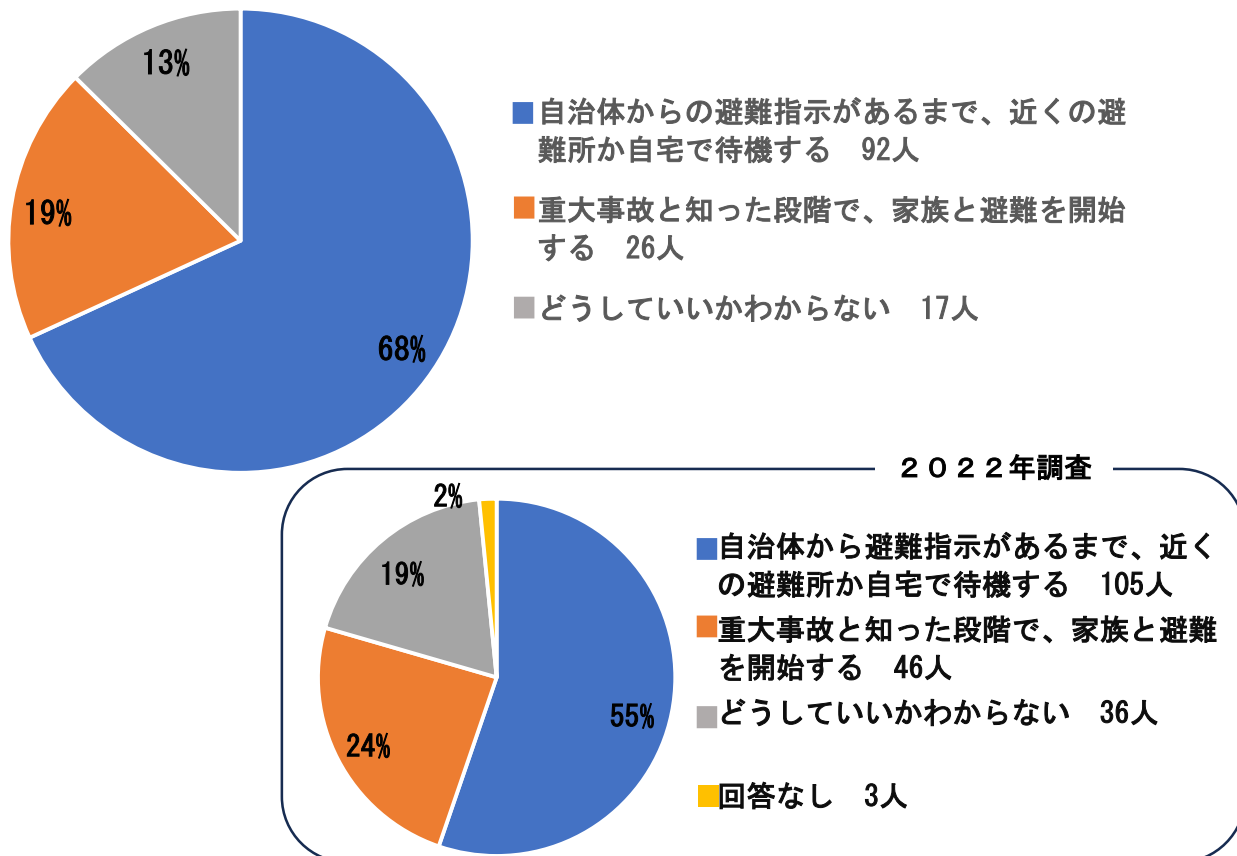
昨年の調査では、原発から比較的遠い七尾市東部、東湊地区や北大呑地区で「知らなかった」という人が多数を占め、「しおり」を見ていないという人との相関関係も見られました。今回の調査を市町別で見ると、「知っている」という人は志賀町64%、羽咋市54%、宝達志水町は65%といずれも高く、特に原発から最も距離のある宝達志水町で最も高い数字となったのは意外でした。

年齢別では、回答者数の少ない30代、40代で「知らない」が過半数となった以外はいずれも6割前後が「知っている」と回答しています。60代、70代で「知っている」という人が多いのは昨年と同様の傾向です。男女別では男性が67%に対して女性は57%となっていますが、ここは昨年と逆で、男性の方が避難計画に関心ありと結論付けるのは早計と思われます。

質問4 (5～30キロ圏にお住まいの方にお聞きします)

志賀原発が全面緊急事態※となり、屋内退避の指示が出た場合、あなたはどのような行動を考えますか。

※原子炉冷却機能の喪失、全ての原子炉停止操作の失敗、炉心損傷の検出など。



— 計画通り「自治体からの避難指示待つ」が68% —

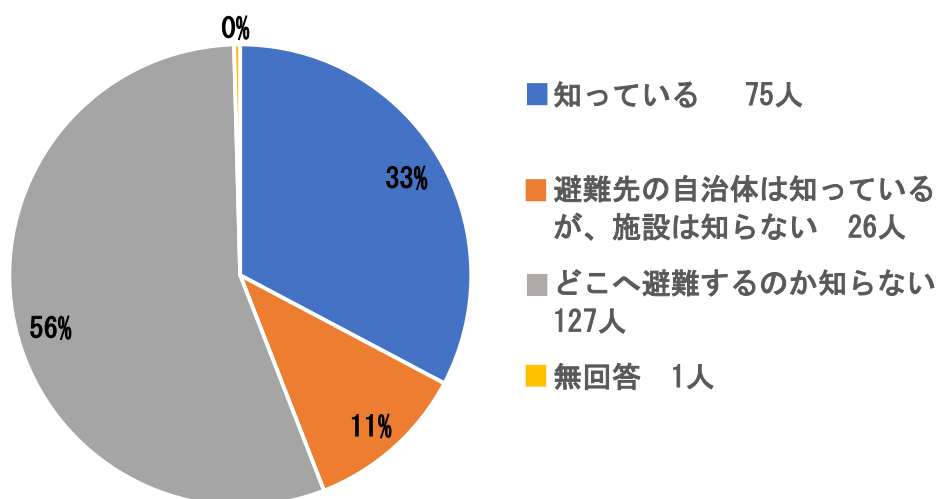
5～30km圏は、全面緊急事態に至ると、まずは「屋内退避」の指示があります。知っているという人が約6割を占める中、いざという時の行動を問う質問です。

この質問に対する回答も昨年と大きく異なりました。自治体の指示に従うという人が3分の2を超えて68%。自主避難を開始するという人は19%にとどまります。自ら移動手段を持つと思われる子育て世代の40代は、自主避難率は37%と最も高くなりましたが、昨年と比較すると低めです。

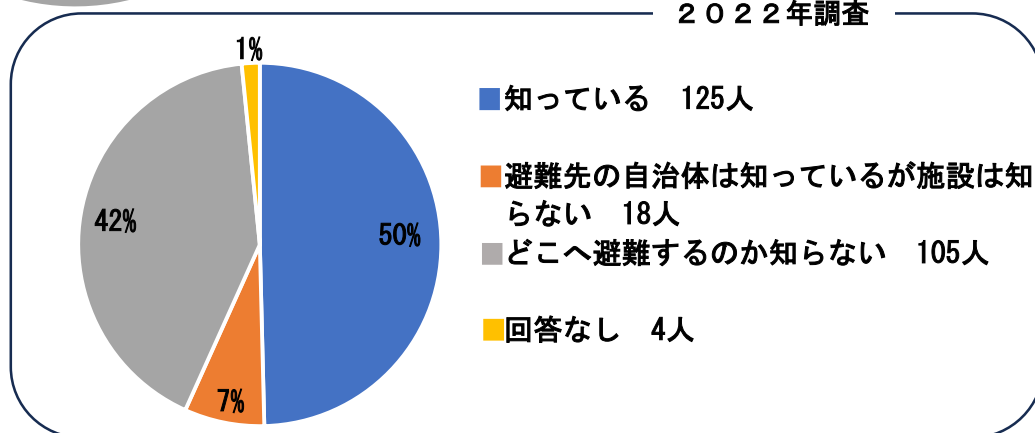
羽咋市と宝達志水町でも違いがあります。宝達志水町は、段階的避難を「知っている」という人が65%ですが、「自治体から避難指示があるまで屋内退避をする」という人は57%にとどまります。一方、羽咋市は「知っている」という人は54%ですが、「自治体の避難指示を待つ」とする人は75%にのびります。男女で比較すると、「自治体の避難指示を待つ」という人は男性で64%、女性では72%にのびります。70歳以上の女性で「重大事故と知った段階で避難する」という、いわゆる自主避難率はわずか5%でした。

国の避難時間推計のガイドラインは自主避難率40%を標準としています。「自治体の避難指示を待つ」人が羽咋市で75%、70歳以上の女性で72%という数字がいかに高いかがわかります。この数字の意味をどう捉えるかが今回のアンケート結果の分析の重要なポイントだと思われます。

質問5 あなたは、あなたが住む地区の避難先施設をご存知ですか。



2022年調査



— 見えてきた「自治体へのお任せ意識」 —

避難計画の重要項目である避難先施設が住民に周知されているかを確認する質問です。この回答結果も昨年の調査と大きく異なります。避難先施設を知っている人は33%で、昨年の50%から大幅減です。一方、避難先の施設はもちろん、どの自治体かすら知らないという人は55%にのびります。

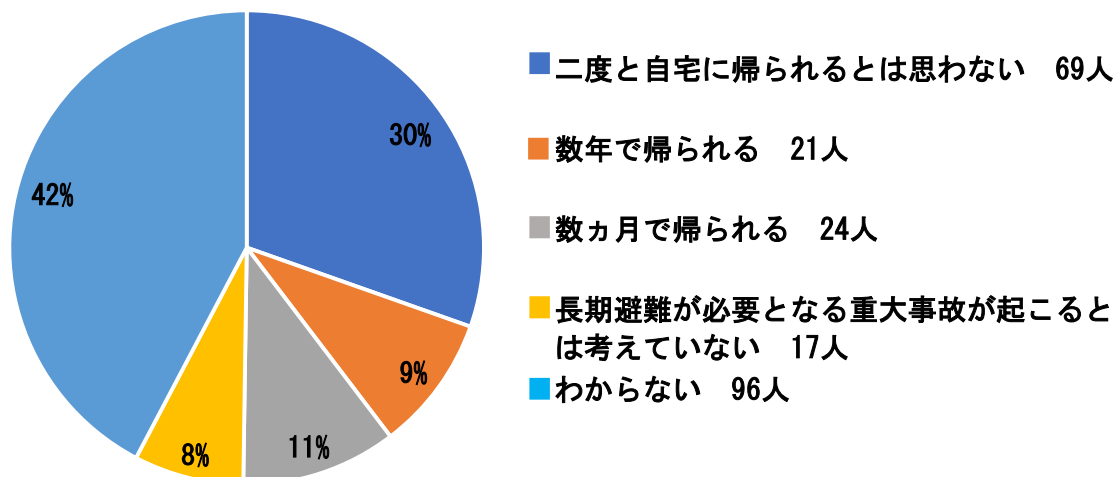
地区別でも大きな違いがあります。志賀町では「知っている」という人は47%、宝達志水町では31%、羽咋市ではわずか17%へと低下します。一方、避難先施設を「知らない」という人は羽咋市で69%、宝達志水町で65%にのびります。

年齢別、性別で見ると、70歳以上の女性では「知らない」という人は62%にのびります。自主避難率が高くなる50代以下でも「知らない」と答えた人は平均以上の58%となります。

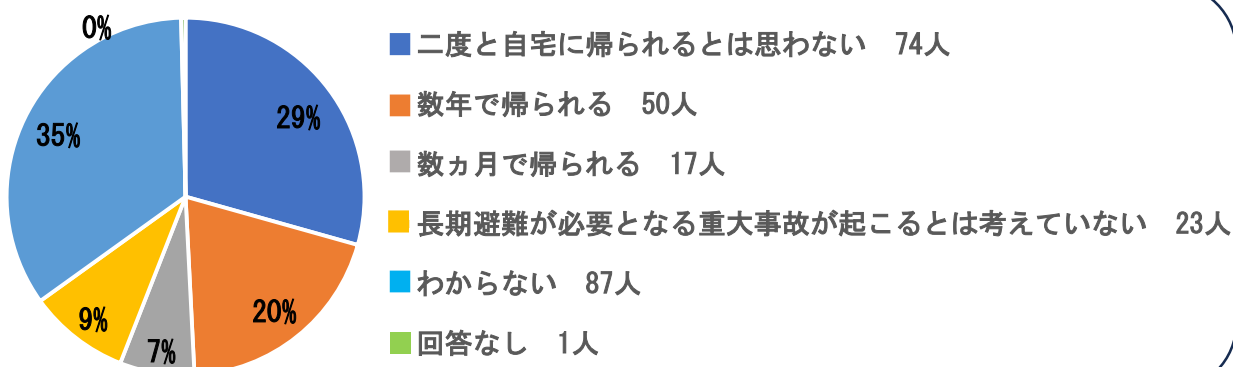
以上の結果を質問2, 3, 4と合わせて考えるならば、自治体への信頼の厚さではなく、むしろ「自治体へのお任せ意識の強さ」が浮かび上がってきます。そして、これはこの1年で生じた能登の変化というよりも、主に地域的な特徴と捉えるべきだと思われます。

福島からの避難者の経験に耳を傾けると、避難行動は常に決断の連続だとの指摘があります。数万人単位の広域避難は決して容易なことではなく、当然ながら住民個々人が決断しなければいけないことも数多くあります。自治体へのお任せ意識は、いざという時の混乱、計画の破綻につながりかねません。今回の数字の背景は慎重に分析しなければいけませんが、少なくとも自治体はこの間、住民に対して原子力防災に主体的に向き合うことの重要性を伝えてきたのか、検証が求められます。

質問6 志賀原発が重大事故を起こし、避難を開始する場合、石川県やあなたがお住いの自治体の原子力防災計画では長期の避難も想定されています。避難が長引く場合、どのくらいの期間になると思いますか。



2022年調査



— 長期避難への覚悟を迫る志賀原発 —

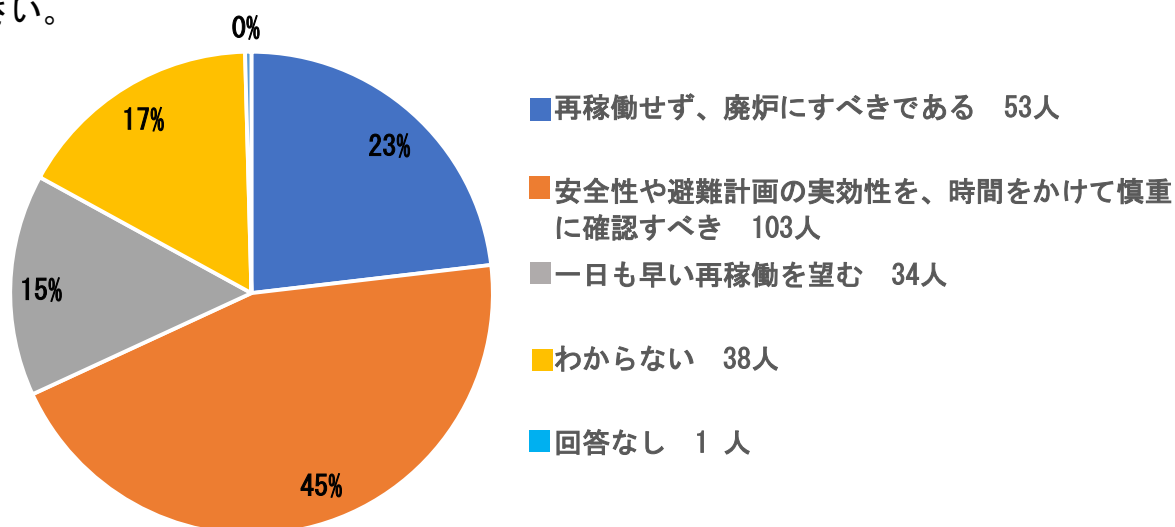
重大事故が起こった場合の長期避難について、どのように理解しているか、あるいはどのようなイメージを持っているかを問う質問です。

「二度と帰られない」が30%、数年単位、あるいは数か月単位の避難を合わせると半数の人が長期避難をリスクとしてイメージしていることがわかります。ただし、昨年の調査と比べると数年単位以上の避難をイメージしている人は10%と少なく、「わからない」という人が増えています。

「二度と帰られない」を地域別に見ると、志賀町が40%と最も多く、羽咋市や宝達志水町でも2割を超えています。「二度と帰られない」を年齢別、性別で見ると、男性の36%に対して女性は25%でした。ただし、これは必ずしも女性が楽観的という意味ではありません。女性の回答で最も多いのは「わからない」で52%、特に70歳以上の女性では62%にのぼります。重大事故であっても、放射能の放出量や風向き等の条件によって影響は異なりますので、「わからない」という回答もありえますが、質問5で指摘したように、むしろ自治体任せで「考えていなかった」、自分事として受け止めてこなかったという意味合いが強いのではないかと考えられます。

安全神話が崩壊した今、長期避難は決して絵空事ではなく、このアンケートを一つのきっかけとして自分事として考えていただければと思います。同時に、数ある発電手段の一つでしかない原発によって、地域住民が重大な覚悟を迫られる現実にも目を向けなければなりません。

質問7 北陸電力は志賀原発2号機について、2026年（令和8年）1月の再稼働を想定しています。志賀原発の再稼働について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。



— 志賀再稼働には依然慎重 —

北陸電力が2026年1月の志賀2号機「再稼働想定」を公表したことを受け、今回は再稼働についての質問を新たに設けました。

「廃炉にすべき」と「再稼働を望む」との比較では「廃炉にすべき」との人が上回りましたが、「安全性や避難計画の実効性を、時間をかけて慎重に確認すべき」が多数を占めています。地域別による大きな違いは見られませんでした。性別では女性の方が廃炉を望む傾向が強く見られます。

参考までに2012年から2014年にかけて私たちが行ったアンケートとの比較を紹介します。

	2012年	2013年	2014年	2023年
廃炉にすべき	37%	41%	32%	23%
安全対策・防災体制の確立が条件	31%	33%	45%	45%
早期の再稼働を	14%	13%	10%	15%
わからない	18%	13%	13%	17%

※2012年 志賀町、羽咋市、七尾市の住民389人

2013年 志賀町、羽咋市、七尾市、中能登町、宝達志水町、輪島市、穴水町の住民601人

2014年 志賀町、羽咋市、中能登町の住民580人

※選択肢の表現はそれぞれ若干異なります。

一方、全国紙の世論調査では原発回帰傾向が顕著です。

- ・朝日新聞世論調査（2023年3月）「再稼働賛成51%、反対42%で、福島後初めて賛否が逆転」
- ・読売新聞世論調査（2022年8月）「再稼働賛成58%、反対39%で、福島後初めて賛否が逆転」
- ・毎日新聞世論調査（2022年9月）「再稼働賛成46%、反対32%」

※各社の質問は賛成・反対の2択

全国的には岸田政権の原発回帰路線と相まって世論も再稼働賛成の流れが強まっていますが、志賀原発に関しては、賛否は逆転しておらず、福島事故直後と同様、再稼働に慎重な意見が根強くあることがわかります。ただし、廃炉を積極的に主張する人は減少し、再稼働に積極的に賛成する人は増える傾向にあります。特にこの1年は電気料金の高騰が生活を直撃しており、以下に掲載した自由意見の中でも電気料金の抑制に期待し、再稼働を支持する意見が数多く見られます。

志賀原発の再稼働や防災計画、防災訓練などについてご意見がありましたらお聞かせください。

志賀町

<福浦地区>

- ・ 防災訓練は小さいころからやっているが、もっとやった方がいい。もっと充実させた方がいい。
- ・ 電気代のため、原発は動かした方がいい。(30 代女性)
- ・ 海岸線の一本道、避難しても放射線が追ってくると思う。こんな訓練でいいのかと思う。年齢を考えた家にとどまろうと思う。(70 代以上男性)
- ・ 避難の放送が聞こえない。スマホを持ってない人は避難連絡の方法に課題がある。(50 代男性)
- ・ 役をしている人は、出られる時には訓練にできればいい。(70 代以上女性)
- ・ 防災訓練はよいことだ。(70 代以上男性)
- ・ いざ、現実となると怖い。(70 代以上女性)
- ・ 活断層のこともあり、再稼働はわからない。津波の方が怖い。(女性)
- ・ 事故などないのが一番。(60 代女性)
- ・ 再稼働はしてほしくない。(70 代以上男性)

<熊野地区>

- ・ 電気代が高い。安全、安心で、一日も早く再稼働を。(70 歳以上男性)
- ・ 防災訓練はとてもよいことなので、定期的に今後も実施してほしい。(60 代男性)
- ・ 北電の努力は理解するものの不安はある。経年していることも不安。管理の面で緊急時の不安もある。(60 代男性)
- ・ 断層が大丈夫かわからんから再稼働は無理でしょう。(60 代女性)
- ・ もうあきらめとる。(70 歳以上男性)
- ・ 仕事の関係で賛成せざるをえない。(70 歳以上男性)
- ・ 反対となかなか言いづらい。(40 代男性)
- ・ 半島に原発を立てないで、広い場所に建ててほしい。(20 歳未満女性)
- ・ 放送が聞こえない。家の中にある無線機をとった。まず原発は廃止です。
- ・ 膝が痛く、動けない。(60 代女性)

<上熊野地区>

- ・ 防災訓練に参加する人は希望者だけなのか。服装や持ち物など準備についても知らされていない。(70 歳以上女性)
- ・ 2 次避難先を広く知らせるべき。(50 代女性)
- ・ 補償や避難の服装はどうなっているのか。(70 歳以上)
- ・ 高齢者が高齢者を介護する原子力防災になっている。避難しても無駄、無理だ。(60 代女性)
- ・ 電気料金が高くなって困っている。再稼働してほしい。(70 歳以上女性)

- ・高齢者、障がい者の避難が不安。(70 歳以上女性)
- ・すぐに避難できない。(70 歳以上女性)
- ・この辺の地域では、訓練に出る人、出ない人がいつも同じ。参加しない人に強制的でも参加させた方がいい。再稼働については 30km 圏の住民の過半数の同意を必要とする住民投票を必ずやってほしいと思う。(50 代男性)
- ・この年だから、ここにじっとしておりたい。(70 歳以上女性)
- ・あきらめている。町のトップを見てもそう。(60 代男性)

羽咋市

<羽咋地区>

- ・団地住まいだが、放送が聞こえない。(50 代女性)
- ・今日、防災訓練があることを知らなかった。(60 代男性)
- ・放送が聞こえない。(70 歳以上女性)
- ・しっかり安全対策したら再稼働してもいい。国と電力会社はなれ合いで住民をなめている。断層の上に建てるな。(70 歳以上男性)
- ・放送が聞こえない。(70 歳以上女性)
- ・私は廃炉にすべきと思うけど、若い人の仕事などを考えると・・・(70 歳以上女性)
- ・最終的には廃炉だが、他の電力を確保しながら計画的に進めてほしい。(60 代男性)
- ・六ヶ所村の核燃サイクル施設の見学に行きたい。(50 代女性)
- ・年寄りなので歩けるかどうか、体が心配。(86 歳女性)
- ・毎年訓練をやっているが、しっかり蓄積してほしい。(40 代男性)
- ・北朝鮮など心配。(60 代女性)
- ・一人でいるので、不安なことが多い (70 歳以上女性)
- ・訓練は必要なのでしっかりやってほしい。(70 歳以上女性)
- ・再稼働して電気代を安くしてほしい。ペット可の避難所を北電が責任をもって用意してほしい。ペットも家族なのでよろしくお願いします。(60 代男性)
- ・天災ならば仕方ないが、できるだけ原発の災害がないことを望む。原発の災害にしっかり対応してほしい。(70 歳以上男性)
- ・北電の考えもあるだろうが、住民が不安だったら他の電力の作り方も検討すべき。(60 代男性)
- ・電気が不足していくので、原発を稼働してほしい。(70 歳以上男性)
- ・前に大きい事故があったから、動かしてほしくない。なくしてほしい。(70 歳以上男性)
- ・電気が大事。早く稼働してほしい (志賀町の人にはわからないけど・・・)。(70 歳以上女性)
- ・若い時、ロシアに戦争に行き、国のために死ぬよう言われた。国境線は人間の生きるところではなかった。そういう経験からすれば、原発はするものではないと考えている。(70 歳以上男性)
- ・時々広報してほしい。(70 歳以上女性)
- ・原発視察に数回行ったことがある。今となったら危険だから廃炉にすべきだと考える。
(70 歳以上女性)
- ・必要やと思うけど、安全性を確認して。(70 歳以上女性)

- ・防火訓練しかしてないので、原子力の訓練についても公民館などで教えてほしい。
(70 代以上女性)
- ・大事なことなのに知らないことがたくさんある。防災訓練についてもっといろんな媒体で知らせてほしい。(30 代女性)
- ・自分は足が不自由であり訓練に参加できないが、できるだけ参加したいとは思っている。
(70 歳以上女性)
- ・「原子力防災のしおり」をもっと頻繁に発行してほしい。10 年前では記憶に残らない。
(60 代女性)
- ・事故が起きたら帰ろうとは思わない。安全な所へ行く。再稼働を望む。関係の皆様、頑張ってください。(60 代女性)
- ・正しい情報がどれだけ早く伝わるのか心配。(60 代女性)
- ・避難所の設備や備蓄がない。町会では人数が少なく準備できない。(60 代男性)
- ・自然（クリーン）エネルギーに移行すべき（70 歳以上女性）
- ・再稼働してもいつまでもつか・・・(70 歳以上男性)
- ・稼働してないなら廃炉にするといい。(70 代以上男性)
- ・避難先に行った後が心配。本当は廃炉にしたいのだが、電力が追い付かない。介護が必要な人、足が悪い人は一般の健康な人と一緒に避難は無理。そういう特別な方の避難所は用意できないか。ペットはどうなっているのか。おきざり？引き取る自治体はあるのか。(60 代女性)

<富永地区>

- ・訓練の実効性について疑問。(50 代男性)
- ・訓練は訓練。いざ事故になったら、行政も命を保証してくれない。自分の命が最優先で避難する。
(40 代男性)
- ・限定された方（民生委員）の参加だけ。もっとランダムに選んでほしい。(70 歳以上男性)
- ・行政と電力だけで進んでいるように感じる。住民、市民にかみ砕いてわかるように進めること。広報だけでは不十分。(60 代男性)
- ・電気は足りている。再稼働の必要性はないのではないかな。安全性をしっかりとってほしい。何か起きたら遅い。(60 代男性)
- ・よく住民の意見を聞いて再稼働の判断を。電気代高騰もあるので総合的に考えて。(40 代男性)
- ・地域で防災士資格をとるなどしているが、訓練の機会がない。訓練も一部だけだし、住民にきめ細やかに周知されていない。実効性に疑問である。(40 代女性)
- ・バス等の手配をみても机上の空論。今後の首長は大変。(70 歳以上女性)
- ・防災無線が聞き取りにくい。(70 歳以上女性)
- ・防災無線はエコーがかかって聞き取りにくいときもある。スマホでの通知は非常に助かる。
(40 代女性)
- ・指示に従うだけ。(60 代男性)
- ・無線は聞きとりやすい。(70 代以上男性)

- ・防災無線は聞き取りにくく、何を言っているのかわからない。近所の人と一緒にすぐに逃げるかも。時間帯によっては判断難しい。(70 歳以上女性)

宝達志水町

<志雄地区>

- ・なにか起こったら、近くの民生委員の人に頼む。避難するより家にいて死にたい。(70 歳以上女性)
- ・サイレン（防災無線？）聞こえづらい。何を言っているのかわからない。渋滞を考えると逃げられない。(50 代女性)
- ・再稼働してほしいです。(50 代女性)
- ・詳しく話を聞きたい。(70 歳以上女性)
- ・関心を継続することが大事。注意喚起を 1 年に 1 回くらいするべき。(70 歳以上男性)
- ・再稼働するなら、まず防災計画、組織をしっかり作ってから。(50 代男性)
- ・年寄りを見守ることが大事。自分で判断すること。命が大事です。(70 歳以上女性)
- ・とにかく放送が全く聞こえない。(70 歳以上女性)
- ・ふだん、事故が起こるなんて考えたことがない。(70 歳以上女性)
- ・放送があっても、風の向きによっては全く聞こえない。(60 代男性)
- ・動かさないにこしたことはないが、電気は必要だし、まして今、原油高で電気が足りず、高くなっている。そのことからすれば、動かしてもいいと思うが、安全性にしっかりとした対策をしてほしい。(60 代男性)
- ・あるのだから稼働させればいいと思う。絶対反対ではない。過疎を何とかしてほしい。避難指示などは、放送が聞こえないので、携帯で見ている。防災訓練に参加したことはあるが、原発の訓練ではなかったみたい。(70 歳以上女性)
- ・原発の危険性ばかりが宣伝されているが、原子力は日本の得意分野なのだから、小型の新しい原発を開発して、それを稼働させればいいと思う。2 号機の再稼働についてはわからない。避難については区長の指示に従えばいいと思っているが、区長にしっかり指示を伝えてほしい。事故の状況はありのまま、隠さんと正しく知らせてほしい。(70 歳以上男性)
- ・原発はないにこしたことはないが、電気が足りなければ・・・ある以上は稼働するのだろうが、十分安全確保してほしい。(60 代女性)
- ・明確な指示をしてほしい。(60 代男性)

<相見地区>

- ・町内放送は女性の声で。(40 代男性)
- ・受入体制、検査体制の拡充を (60 代男性・元自衛官)
- ・訓練を慣例化してほしい。情報ももっと発信してほしい。(40 代女性)
- ・家族が北電に勤務。再稼働を。(70 歳以上女性)
- ・福島事故を教訓にして、対策をしているのではないか。(70 歳以上女性)

2023住民アンケート 地区別集計

		志賀町	福浦地区	熊野地区	上熊野地区	羽咋市	大川町 (羽咋地区)	中央町 (羽咋地区)	深江町 (需永地区)	宝達志水町	子浦 (志雄地区)	今兵 (相見地区)	計		
	総数	94	25	30	39	81	23	36	22	54	34	23	229		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
問2	男	43	46%	13	52%	18	60%	12	31%	22	41%	12	35%	99	43%
	女	47	50%	12	48%	10	33%	25	64%	31	57%	10	62%	125	55%
	NA	4	4%	0	0%	2	7%	2	5%	1	2%	1	3%	5	2%
	1	22	23%	11	44%	4	13%	7	18%	10	19%	5	15%	47	21%
	2	15	16%	4	15%	0	0%	1	3%	5	9%	3	9%	26	11%
問3	3	24	26%	4	15%	9	30%	11	28%	10	19%	7	21%	55	24%
	4	33	35%	6	24%	17	57%	10	26%	29	54%	19	56%	98	43%
	NA	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	1%
	1	63	64%	16	64%	24	80%	20	51%	35	65%	21	62%	139	61%
	2	34	36%	9	35%	6	20%	19	49%	19	35%	13	38%	90	39%
問4	1									31	57%	18	53%	92	68%
	2									13	24%	8	24%	26	19%
	3									10	19%	8	24%	17	13%
	1	44	47%	15	60%	18	60%	11	28%	17	31%	9	26%	75	33%
	2	13	14%	5	20%	6	20%	2	5%	3	5%	3	9%	26	11%
問5	3	37	39%	5	20%	6	20%	26	67%	34	63%	22	65%	127	55%
	NA	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%
	1	38	40%	12	43%	19	63%	7	18%	12	22%	11	32%	69	30%
	2	5	6%	2	8%	1	3%	3	8%	6	11%	2	6%	21	9%
	3	5	5%	1	4%	2	7%	2	5%	7	13%	2	6%	24	10%
問6	4	2	2%	0	0%	1	3%	1	3%	5	9%	0	0%	17	7%
	5	41	44%	10	40%	6	20%	25	64%	24	44%	19	56%	96	42%
	その他	2	2%	0	0%	1	3%	1	3%	0	0%	0	0%	2	1%
	1	23	21%	8	32%	5	17%	7	18%	12	22%	10	29%	53	23%
	2	41	44%	11	44%	16	53%	14	36%	30	56%	22	65%	103	45%
問7	3	13	14%	4	15%	4	13%	5	13%	7	13%	1	3%	34	15%
	4	19	20%	2	8%	5	17%	12	31%	5	9%	1	3%	38	17%
	NA	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%

住民アンケート 年齢・性別集計

年代	20 ↓	20	30	40	50	60	70	?	性別計			計
人数	3	2	6	23	21	49	124	1				229
構成比	1%	1%	3%	10%	9%	21%	54%	0%				100%
人数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	?	
	2	1	2	4	9	13	25	22	51	71	0	
構成比	1%	0%	1%	2%	4%	6%	11%	10%	22%	31%	0%	
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
問2	1	0	0	0	2	0	5	7	13	20%	0	26
	2	0	0	0	1	0	0	1	5	18%	0	21%
	3	0	0	1	0	0	8	7	15	14%	1	17
	4	2	1	1	0	0	12	1	17	23%	1	26
問3	NA	0	0	0	0	0	0	1	1	25%	0	55
	1	1	1	1	4	0	17	1	35	41%	0	98
	2	1	0	0	1	1	8	7	16	37%	0	43%
	1	0	0	1	3	0	13	0	16	72%	0	3
問4	2	0	0	0	0	0	2	2	8	58%	0	139
	3	0	0	0	0	0	0	0	4	42%	0	61%
	1	1	1	1	3	1	10	6	18	33%	1	90
	2	0	0	0	0	0	4	2	8	14%	0	26
問5	3	1	0	1	3	0	11	8	29	20%	0	17
	NA	0	0	0	0	0	0	0	0	5%	0	75
	1	0	0	0	1	1	8	1	19	10%	0	26
	2	0	0	0	0	0	4	1	4	62%	0	127
問6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	0	55%
	1	0	0	1	3	1	6	1	19	0%	0	1
	2	0	0	1	2	2	8	1	19	20%	0	69
	3	0	0	1	4	2	3	0	5	13%	0	30%
問7	4	0	0	0	0	0	1	0	1	1%	0	21
	5	2	0	0	0	0	9	1	14	7%	0	9
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	62%	0	24
	1	0	0	0	0	0	3	0	12	0%	0	17
問8	2	1	1	1	3	1	16	2	21	30%	0	96
	3	0	0	1	0	0	4	0	13	44%	0	2
	4	1	0	0	0	0	2	0	5	23%	0	53
	NA	0	0	0	0	0	0	0	0	22%	0	103



発行：2023 年 12 月

住民アンケート調査実施団体

石川県平和運動センター
原水爆禁止石川県民会議
志賀原発を廃炉に！訴訟原告団
さよなら！志賀原発ネットワーク
社 民 党 石 川 県 連 合